

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691100190		
法人名	株式会社 のぞみ		
事業所名	おうちととなり		
所在地	富山県射水市黒河3252-1		
自己評価作成日	平成 27年 7月 13日	評価結果市町村受理日	平成 27年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「おうち」のような安らぎと、「となり」のような親しみを持てる関係づくりを心掛けている。
利用者一人ひとりの状態やその方の背景に考慮し、その人らしく生活できるよう支援を行っている。
地域とのつながりが断ち切れないよう、地域との共存・協力を実践している。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成27年7月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者のほとんどが地域在住者で、友人・知人の面会も多く、買い物等で近所の方々と気楽に会話を交わしたり、自宅に居るような雰囲気、地域に密着した事業所となっている。代表者、管理者と職員は信頼関係を築き忌憚のない意見を交わし、利用者が「おうち」のような安らぎで安心して過ごせるよう、ケアに取り組んでいる。また、利用者の健康管理を重視し看護師を常勤で3人配置し、24時間オンコールの体制で対応している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

おうちととなり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し、職員は常に理念を確認することができる。また、職員研修を行う際には理念を提示し、研修を通し理念に基づいた実践方法を検討している。	利用者が「おうち」のような安らぎと「となり」のような親しみを持てるよう、朝の申し送り時に全員で理念を確認・共有し、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事を通じて、事業所や利用者が地域の方々と交流を持てるように地域の行事参加を行っている。（梨の受粉体験、報恩講、町の獅子舞など）	保育園の運動会やお寺の報恩講、地域行事等に積極的に参加している。また、地域の社会福祉協議会を通じ、地域の方が事業所見学に訪れたり、認知症に関する講演依頼を受けるなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームに申し込みに来られた方や地域の方、民生委員等に、その方一人ひとりの状況を確認し、より良い支援方法を共に検討するなど、アドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、日々の介護や利用者への取り組みを写真を通して伝えている。また、行事等があれば地域の方々に参加して頂けるよう発信を行っている。	市および地域包括支援センター職員、自治会、民生委員、利用者家族等、幅広い方々の参加を得て、2か月ごとに開催している。事業所からの活動報告とともに参加者から意見や提案をもらい、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村及び、地域包括支援センターと連携を図るため、運営推進会議等に参加してもらっている。また、困難事例等では市町村に確認・相談しながらサービス提供を行っている。	市へ介護保険制度や料金について確認をしたり、地域包括支援センターより認知症の対応について問い合わせを受けたりして、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に向けて、全職員に身体拘束についてのマニュアルの配布を行っている。また、玄関の施錠は行っており、新人職員にはその都度、身体拘束をしないケアについて説明を行っている。	身体拘束については、マニュアル等で話し合い確認し、利用者が自由に安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて、日々のケアの中で職員同士が身体的虐待はもちろん、言葉の虐待に対しても意識を持って接している。また、入浴やオムツ交換時、普段の生活の中で利用者にな不自然な痣等がないか、確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オープニング時には、後見人制度についての研修を行っている。成年後見人制度を利用している方もいるため、新人職員には、成年後見人制度や権利擁護についてその都度説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前には、必ず施設見学や施設についての説明を行い契約を行っている。また、契約時には解約・料金等についての説明を重点に置き、家族の立場になって説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりの定期新聞（おたっしや通信）を作成、配布し普段の様子をお伝えしながら、家族の意見を取り入れるよう支援している。また、昨年度の第三者評価アンケートの結果を運営推進会議や家族に公表し、改善を図っている。	利用者家族とのコミュニケーションツールとして、毎月利用者ごとの「おたっしや通信」を発行し、利用者の普段の様子を伝えている。面会時に通信に関する話題を取り入れたり、利用者や家族の希望や意見を聞き、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの時間をもち、職員の意見を聞く機会を設けている。また、普段から代表や管理者に直接要望を伝える事ができる。	申し送り等で意見や提案を聞くようにしている。代表者、管理者と職員は信頼関係を築き忌憚のない意見を交わし、どんな些細な意見、提案でも取り上げ、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員一人ひとりと話合う機会を持つよう配慮している。また、個々の能力に応じて就業できるよう職員同士協力しあうよう呼びかけ、環境整備に取り掛かっている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では、代表や管理者が講義を行い、一人ひとり説明を行っている。また、社外研修にも積極的に参加できるよう情報を伝え、有給を取得したりシフトを考慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	包括支援センターとの研修を通じて同業者との交流を図れる場がある。また、同業者や居宅介護支援事業所等からの施設見学も多く、ネットワーク作りが行われている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設のデイサービスから利用される方もいるため、サービス利用する前から本人や家族が不安に感じている事を確認するなど関係作りが出来る。また、外部からの利用者には本人・家族・関係者と連携を図り、本人が安心して利用できる支援体制を整えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前に、必ず代表や管理者と面談を行い、不安に感じている事や要望を聞き入れている。(入居時の不安や入居後の対応など共に対応策を検討している)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や初期段階に家族や本人の意向を確認し、本人や家族と相談しながらサービスの見極めを行っている。また、対象でないと判断した場合には、担当のケアマネージャーと連携し他のサービスへの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に同じ食事を摂っており、共に生活する意識を持っている。また、洗濯物をたたみ、食事の下準備、片づけ等を一緒に行うなど、互いに支えあう支援を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、一人ひとりの写真やコメントを載せた「おたっしや通信」を作成し、配布することで家族との関係や絆を大切にする支援を行っている。また、外出や外泊の機会を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの馴染みの場所は入居当初に家族や本人から確認している。また、地域の病院、接骨院、美容院、鮮魚店、ショッピングセンターを積極的に利用したり、民生委員や自治会との交流を図る事で地域との関係を大切にしている。	友人・知人の面会が多くある。また、買い物等で近所の方々と気楽に会話を交わしたり、併設のデイサービスへ出向いたりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、仲の良い人同士が語り合える場所（テレビ前にソファを設置）を提供し、団らんの場を設けている。また、他ユニットの利用者間も行き来できるよう職員と一緒に体操やカラオケ、法話会等の行事を共に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し、自宅へ戻られた方は併設のデイサービスを利用しながら、グループホームの友人たちと交流を図っている。また、特別養護老人ホームや医療機関へ入所及び入院した際も、面会に行くなどのフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを聞くため、入浴中やリラックスしている隣に寄り添い、日々の中で発する一言を聞き洩らさない支援を心掛けている。また、本人からの一言は朝の申し送り時に職員同士で共有できるよう伝えている。	個別に接する時間の中で一人ひとりの話を聞くようにしている。体調や思いを聞くことができた時は、申し送りを通じて職員全員で共有し、統一した関わりができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やその人の馴染みの暮らし方等は、入居前や入居後に本人や家族に確認している。また、ご家族の写真やなじみの物、思い出の品などを持参して頂き、安心して生活できるような体制を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	掃除が得意な方、イモの皮むきが得意な方、塗り絵が好きな方、パズルを得意とする方など、一人ひとりの状態や有する力を見ながら、その方の状態に合わせた対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に、本人や家族の希望を聞く事で、毎朝の申し送り時に、一人ひとりの状況や希望に合わせた介護の方針を確認し介護職、看護師で話し合っている。	家族の希望や看護師・ケアスタッフの意見を聞いて計画作成し、申し送りでケア目標を確認しながら実践している。申し送りの意見や記録の中からモニタリング・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は、支援経過に記入するが、状況の変化等があれば職員用連絡ノートにも記入し、全職員の共有事項として対応を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の背景や状況に応じて、その時必要なサービスの提供を心掛けている（自宅へ出向き衣替えを行う、個別の買い物、行きたい所へのドライブ、個別の外食等）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお寺での報恩講や、保育園の行事参加、地元の商店や美容院、病院を利用するなど、地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や協力医、家族と連携し、発熱時など有事の際には速やかに受診が出来るよう支援体制を整えている。（看護師が3名在籍しており、医療機関との連携を図っている）	定期的に協力医の往診を受けている。また、体調変化時は必要に応じ受診できるよう支援している。看護師3名の配置で、協力医と連携を図りながら日々の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、申し送りやカンファレンスに参加するなど、看護師との連携を密に図っている。また、24時間のオンコール体制を取っており、適切な対応を速やかに受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった際には、協力医へ紹介状の手配や、介護サマリーの作成を行うなど医療機関との情報交換を密に行っている。また、入院中の情報共有及び退院時のカンファレンスには代表もしくは管理者と看護師が参加し、退院後も安心して生活できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について説明を行っている。また、終末期に向けて本人や家族の意向を確認しながら、介護職員・看護師・協力医との連携を図り、出来る限りの支援を行うよう努めている。	看取りまでの対応や説明を契約時に行っている。入居中に新たな疾病が見つかったり状態変化等が見られた時は、その都度話し合いを行っていく方針である。現時点で看取りの対象の方はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えて、AEDや吸痰器を設置している。また、介護職員は救命救急やAEDの講習、緊急時対応マニュアルの社内研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、利用者、職員での消防署立ち合いの避難訓練を実施している。また、非常食や飲料水の確保を行っており、近隣企業に有事の際の協力を求めている。	備蓄や非常口について消防署から助言をもらい整備している。避難訓練については運営推進会議で報告し近隣の協力を依頼している。職員が地域の防災訓練に参加し炊き出しなどの実践を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	忙しい時に強い口調となる事があるため、職員同士で互いに尊重した声かけになるよう注意しあっている。	言葉かけや対応で気になる点は、職員同志が声かけし注意するようにしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに努めているが、忙しくなると語調が強くなる場合がある。	職員全員が基本に戻り、マニュアルの活用や内部研修の実施等で、現状を振り返り、改善に取り組むことが期待される。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定ができるよう、おやつの中にはメニュー表にて好きな飲み物を選んでもらったり、外出や行事参加は自己決定してもらっている。	/		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合った支援を常に心掛けているが、職員の都合で業務優先となる事もあるため、今後も互いに注意しあっていきたい。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい見だしなみを心掛け、本人や家族の持ち込みによる服を職員と共に選んでいる。また、2か月に1回程度、訪問美容院が来苑し、その人に合った髪型で髪をカットしてくれている。				
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際には、利用者にじゃが芋の皮むきや机拭きなどを行ってもらう事がある。また、事業所内の菜園に茄子やトマト、きゅうり、ネギなどを栽培しており、一緒に収穫しながら調理提供を行っている。	菜園の野菜を調理して献立の1品に加えたり、好みを聞いて魚屋から刺身やウナギを取り寄せるなど食の楽しみを作っている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み同じ食事を楽しむ環境を大切にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事の提供（キザミ食、ミキサー食、塩分制限、糖尿病食等）を心掛け、毎食ごとに食事量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの実施や義歯洗浄を個別に行い対応している。また、希望者には定期的な歯科受診を勧め、看護師や家族が対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、排泄チェックを行い、定時以外にも本人の表情及び声かけにてトイレ誘導を行っている。	排泄チェックで時間を見て誘導し、失敗なくトイレで排泄できる支援を行っている。その方に合ったオムツやパットを選定し気持ちよく過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、多めの水分補給や繊維質の多い食事の提供を心掛けている。また、毎日DVDを見ながら音楽体操を行うなど、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、ゆったりと入浴できるよう家族風呂で対応している。また、気分を変えて入浴できるよう、併設しているデイサービスのお風呂（炭酸浴泉）で入浴することもできる。	入浴を拒否されても声かけを工夫して毎回気持ちよく入れるように誘っている。同性介護や二人介助などその方の状態や希望に合わせた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるよう照明を暖かな色合いの物にするなど、環境を整えている。また、不眠を訴える場合には暖かな牛乳を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に1回、協力病院の看護師や薬剤師が訪問し、適切に内服されているか状況を確認している。また、介護者は内服介助を行う際には、二人で内服薬を確認し、誤薬がないよう支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ機材を設置し、歌の好きな方にはカラオケを楽しんでもらっている。また、神棚へのお参りや歩行練習、散歩、ドライブ、外食等、一人ひとりの希望に沿った支援を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭や、駐車場に出て竹林を眺めるなど普段から戸外に出る支援を行っている。また、近所のドラックストアやコンビニ、スーパーなどの買い物や、イベントへの参加、ラーメン・お寿司の外食等、個別で対応を行っている。	地域のイベントに合わせてドライブに出かけたり、日常的に散歩や買物に行ったり、屋外に出て菜園での収穫など楽しんでいる。家族の協力を得て自宅や墓参りに行く楽しみも作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主にホームでおこずかいを管理しているが、本人が希望されれば、家族了解の元、自己管理している方がいる。自己管理している方に関しては、買い物があれば家族に使用した事を伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や、本人が希望されれば家族へ電話するなど、自由にやり取りが出来る支援を行っている。また、携帯電話を持参している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、天井が高く天窓があり、庭に設置された窓は大きく開放的であるため、自然光が取り入れやすくなっている。また、電灯は暖色系を使用し、落ち着いた雰囲気になるよう設置されている。テラスにはグリーンカーテンや花壇を設置し、利用者一人ひとりの楽しみとなっている。	天井が高く開放的なリビングや交流スペースなどはゆったり過ごせる空間となっている。床やドアが温かみのある色で自然光が入りやすく明るい雰囲気である。リビングにソファを置いてテレビを見たりカラオケ機器で唄を歌うなど楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が座れるよう、テレビの前には3人がけのソファが設置され利用している。また、別ユニットやデイサービスの利用者とも交流が図れるよう、ユニットの間に交流スペースが設置されており、自由に利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂くため、利用者一人ひとりの状態に合わせた居室内の家具・ベッドを配置している。また、入居時にはなじみのイスやタンス、お気に入りのぬいぐるみ、ラジオなどを持参して頂き、居心地の良い空間作りに努めている。	電動ベッドを設置し歩行器や車イス使用でも移動できるよう配置を工夫している。また、清掃担当が居室を毎日掃除している。好みの洋服など家族が持参し一緒に片付けを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーや、廊下やトイレ、居室用に手すりが設置されており、夜間には足元の常夜灯が点灯している。また、U字型の歩行器や車椅子の方でも自由に移動できるよう広くスペースが取っており、思い通りに過ごす事ができる。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 おうちととなり

作成日 平成 27年 9月 2日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かや対応が出来ておらず、忙しい時には強い口調で接することがある。	全職員が基本に戻り、マニュアルを活用や内部研修により、声かけの方法や尊厳を保つ声かけを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護マニュアルにて、声かけの方法や利用者への接し方を再度検証する。 ・社内研修を通じて、利用者への尊厳を学ぶ。 ・普段より、職員同士が声かけについて注意しあう。 	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

おうちととなり